家庭学習

学力向上には家庭学習の習慣化は欠かせません。「家庭学習のて びき」等で具体的な取組方法を示し、家庭と連携して落ち着いて学 習できる環境づくりを進め、自律的な学習習慣を確立しましょう。

家庭学習は大きく ①宿題 ②音読 ③自主学習 ④読書 に分けられます。小学校低学年 ~中学年は、家庭学習の習慣をつけさせましょう。小学校高学年~中学校は、自分の課 題や目的に応じた自主学習ができるようにしましょう。

1 一日の学習時間(目安)

- ① 小学校 10×学年+10分
- ② 中学校 10×(学年+6)+10分 (学校独自に学習時間を設定している場合があります。)

2 取り組む順番(例)

題: 学校の宿題が一番先。(連絡帳を見て)点検。 読: 小学生は家の人に聞いてもらい、印をもらう。

③ 自主学習: 自分で考えた学習。予習・復習等。中学生はこれが中心。

書: 毎日読書。時間やページを決めて行う。

自主学習取り組みの工夫

見開き2ページにまとめさせる。ローマ字

日記を書く。平日は予習・復習・宿題、休日は問題集・ワークのようにパターンをか える。中学生は復習で問題集、ワークにできるだけたくさん取り組む・・・などなど



■的にやるぞ! に置く! レビやゲームは当 に置く!

毎日、時間を決いは消してやる!

時間を決めて

タイは手の届かないと

3 取組の工夫

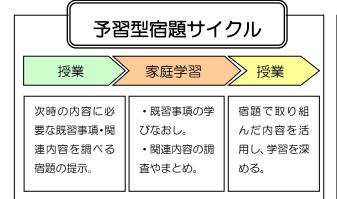
- ① **始めが大切**:学期始めには家庭学習の仕方をしっかり確認する。
- ② 内容の向上:よいノートを掲示や通信で紹介し、取組の参考にさせる。
- ③ **やる気UP**:フィードバックとしてコメントを書いて児童生徒の意欲を高める。
- ④ チェック:短時間に全員にコメントは書けません。こんな工夫もあります。

チェックの工夫

ノートを2冊準備し、一日おきに使用させ、コメントを書く。

- ・学級の半分ずつコメントを書く。(2日に一度はコメントを書く目安で)
- ・児童生徒が、どうしても見てほしいというノートには、付箋を貼るなどの約束を作っておく。
- コメントが書けなくても、ノートを見た印は必ずつけて返しましょう。

4 各教科や単元の特性に応じ、学習の見通しをもたせた家庭学習の取組



復習型宿題サイクル

授業 家庭学習 授業 •本時の内容を •学習内容の確 宿題の答え合わせ をし、解答を全員 再度確認。 で確認。小テスト ・定着を図る宿 • 反復練習等 題の提示。 の実施。